

黒部市役所庁舎跡地活用検討委員会（第3回）会議要旨

- 1 と き 平成 26 年 11 月 18 日（火） 13 時 30 分～
- 2 と ころ 黒部市民会館 102 会議室
- 3 出席者（委員及び事務局）

●委員

No.	団 体 名	役 職	氏 名
1	黒部市行政改革推進市民懇話会	副 会 長	浦 崎 滋
2	黒部市自治振興会連絡協議会	副 会 長	岩 井 憲 一
3	黒部市自治振興会連絡協議会	監 事	山 本 秀 治
4	黒部商工会議所	副 会 頭	植 木 眞 人
5	黒部青年会議所	理 事 長	三 井 陽 一 郎
6	三日市商工振興会	会 長	浦 田 隆 夫
7	くろべ女性団体連絡協議会	会 長	牧 野 和 子
8	黒部市公民館連絡協議会	会 員	上 田 洋 一
9	公募委員		堀 内 國 春
10	黒部市	副 市 長	中 谷 延 之

●事務局

No.	役 職	氏 名
1	総務企画部長	柳 田 守
2	総務企画部総務課長	長 田 行 正
3	総務企画部総務課長補佐総務管理係長	橋 本 正 則
4	総務企画部総務課長補佐行政改革推進係長	中 湊 栄 治
5	総務企画部総務課主査	西 田 国 司
6	総務企画部総務課主事	吉 松 繁 里

- 4 欠席者（委員）

No.	団 体 名	役 職	氏 名
1	黒部まちづくり協議会	副 会 長	中 野 隆 志

- 5 次 第

(1) 開 会

(2) 委員長あいさつ

(3) 協議事項

- ・ 中心市街地における黒部庁舎跡地の活用視点・活用形態・活用手法の検討について

(4) 閉 会

6 会議概要

(1) 開 会

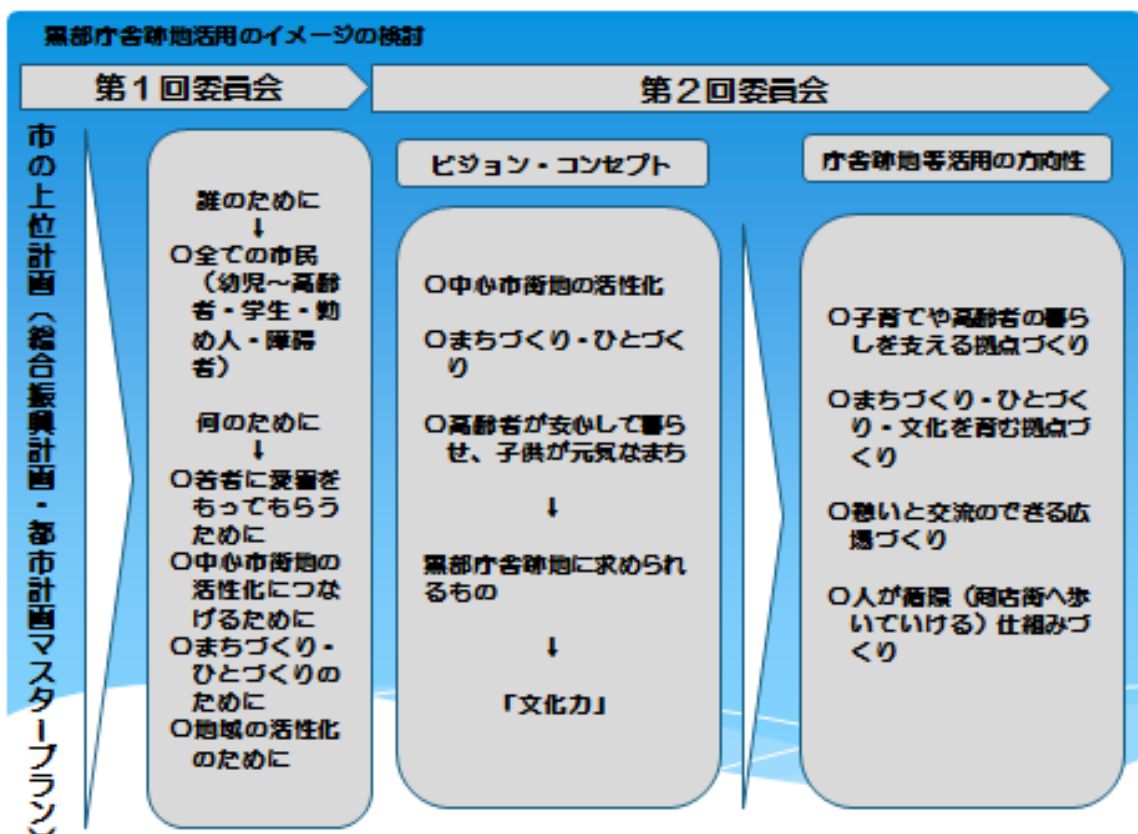
(2) 委員長あいさつ

■委員長挨拶要旨

これまで、検討委員会を2回開催し、庁舎跡地の活用方法等を議論いただいた。前回の会議では、具体的な施設として図書館の名前があがったが、この委員会に課せられているテーマは、「できれば複数の施設名」ということなので、今日は、図書館以外の施設について議論いただければと考えている。議論を重ね、現実的な施設を協議していく中で、現庁舎の敷地の面積が深く関わってくると思う。この場合は、駐車場の考え方も重要になってくる。前回の会議では、人の流れ、循環型という意見もあったので、敷地の面積も念頭に入れながら進めていかなければならないと思っている。本日の資料には、先進地の事例も出ている。どれも新しい施設であり、私たちがうらやましいと思う施設である。委員会としては、必要があれば先進地視察も考えている。いずれにしろ、これまでの議論を踏まえて、内容のある会議にしていきたい。

(3) 協議事項

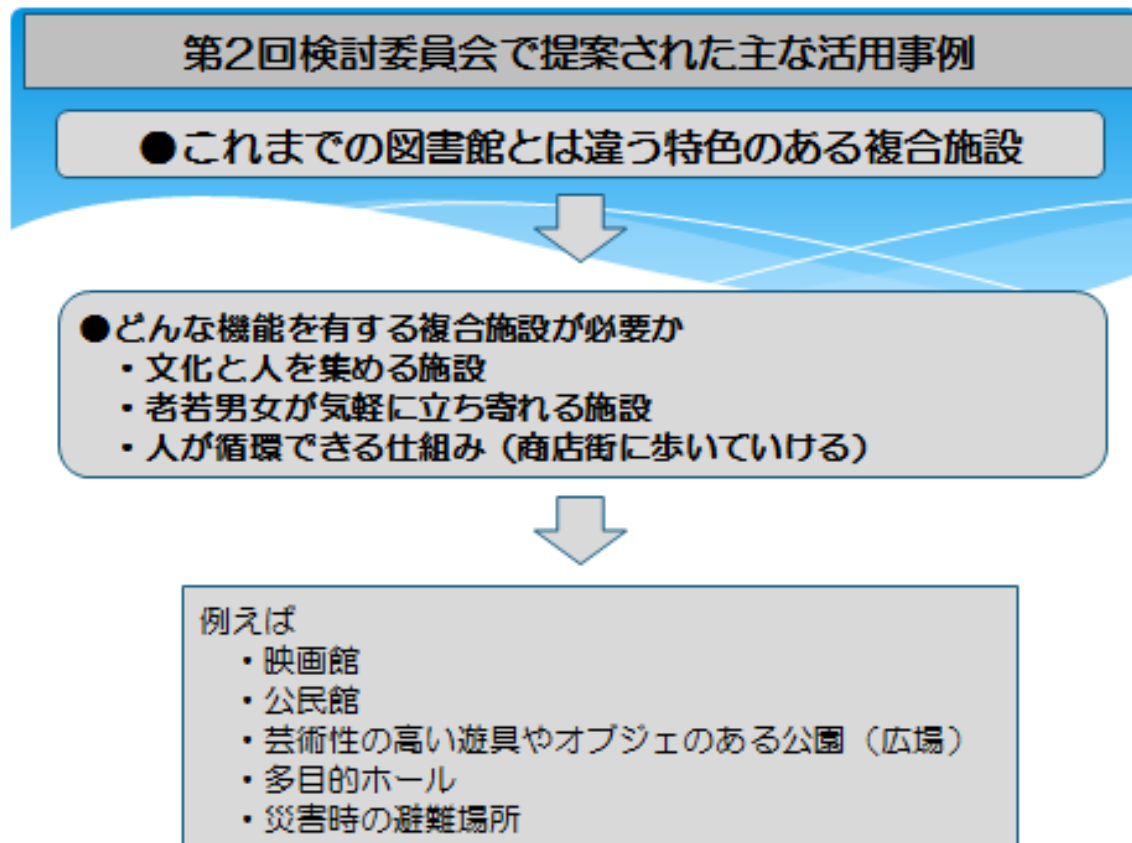
- ①中心市街地における黒部庁舎跡地の活用視点・活用形態・活用手法の検討について
<資料1>

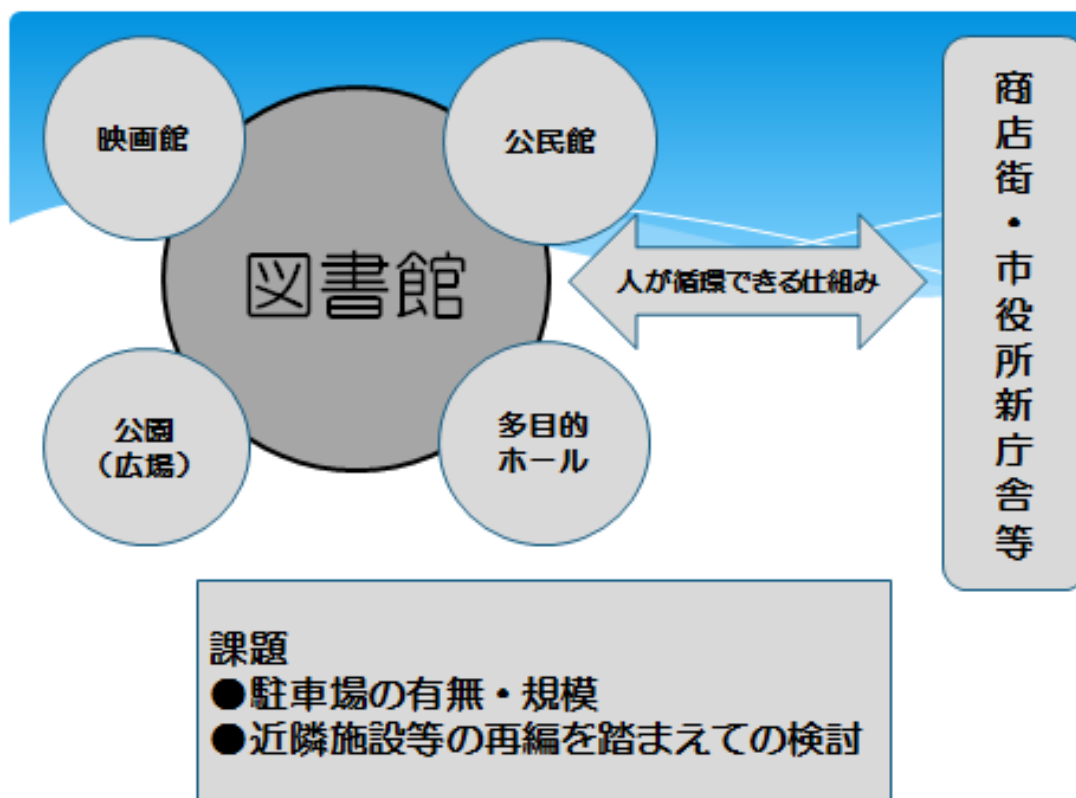


<資料 2>

これまでの委員会での意見	「公共施設あり方検討委員会アンケート」から読み取れる市民が希望する施設のあり方等
<p>【活用の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地の活性化については、文化という形で役立てればと考えている ● 市庁舎周辺には、老朽化した施設があることから、施設の再編も検討すべき ● 交通アクセスとして、人が循環できる仕組みづくり ● 中心市街地の活性化をコンセプトに跡地利用を検討すべき ● 様々な機能を集積し、人の集まる要因を形成させる ● 公共交通機関の利用等を想定し、いろんな機能を有する施設を建設すべき ● 現庁舎に「専修高等小学校」があった歴史を考えると「学びの場」・「人が育つ」場所（施設）であってほしい ● 市の上位計画に基づき、具体的な形にするときは、「歩いて安心して」等のキーワードを実現するための議論が必要 ● 現実的なことを考えると、まずは「住みやすく、使いやすい」施設が必要 ● まちづくりの原点は「人づくり」このため「人づくり」ができる施設が必要 ● 幼児から高齢者までの不特定多数の人が繰り返し利用できる施設が必要 	<p>【施設規模・仕様・機能について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1日でいろんな施設を利用したいため、コンパクト（集約）してほしい ● あちこちに施設が点在しているので集約してほしい ● 車ありきでの施設にならないほしい ● 公共の乗り物が見える、車までの利用がしやすいようにしてほしい ● 施設のデザインにお金をかけすぎない ● 駐車場をもっと広くしてほしい ● 高齢者が利用しやすい施設 ● 小さい子供も遊びやすい公園 ● 必要以上に大規模なもの、華美なものはいらない ● 図書館を充実してほしい（図書館とカフェの併設・図書の実装等） ● 児童センターと公民館の併設 ● 雨の日に子供と遊びにいける施設 ● 高齢者が老人施設ではなく、誰でもいつでも気軽に立ち寄り、会話できる施設 ● JR駅付近での学習スペース ● 子供から老人まで使用でき、気軽に集まれる施設 ● 多目的機能を備えた公共施設 ● 災害時に避難場所として活用できる施設

<資料 3>





<資料 4 >

■ 図書館を核とした複合施設事例集

- I 武雄市図書館（佐賀県武雄市）
- II 武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）
- III 田原市中央図書館（愛知県田原市）
- IV 塩尻市市民交流センター（長野県塩尻市）

I 武雄市図書館（佐賀県武雄市）

コンセプト・基本理念 : 市民の生活をより豊かにする図書館
特徴・概要 : 民間施設を併設し、コーヒーを飲みながら本が読めるライブラリー&カフェ



具体的な特徴・概要

- 1 コーヒーを飲みながら本を読める図書館
 - (1) 館内にカフェ（スターバックスコーヒー）が設置されており、カフェでくつろぎながら本を読むことができる。
 - (2) 館内のカフェで購入した飲み物は、全ての閲覧スペースに持ち込むことが可能。
- 2 管理運営企業独自のサービスを図書館に導入
 - (1) 民間の書店の空間やサービスを参考に、年中無休、9時～21時を開館時間としている。
 - (2) 図書館の隣に民間の書店（TSUTAYA）が併設されており、書籍の購入やCD・DVDのレンタルができる。

Ⅱ 武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）

コンセプト・基本理念	： 知的な創造や交流を生み出し、まちの活性化を深められるような市民活動を支援する
特徴・概要	： 駅前の複合施設内にあり、人々の交流を生み出す滞在型の図書館



具体的な特徴・概要

- 1 多機能の配置を工夫し、人々の交流を生み出す
 - (1) 「図書館」、「生涯学習支援」、「市民活動支援」、「青少年活動支援」を行う複数の機能が盛り込まれており、人とひとが出会い、交流する工夫がされている。
 - (2) 人々の交流が自然に生み出されるように、会議室をガラス張りにしたり、市民スペースにスタディコーナーを設置するなどの工夫がなされている。
- 2 誰でも立ち寄れる滞在型の図書館
 - (1) 従来の図書館の「静かな場所」に加え、「音を出しても良い場所」を設けることで、誰でもふらっと立ち寄れる図書館となっている。
 - (2) 1階中央部にカフェを導入し、貸出処理をしていない本を読みながら飲食できる場を設けている。
- 3 公園を併設した図書館
 - (1) 図書館の前に公園を整備し、学生や親子連れが食事をしたり、地域団体等がイベントを実施する等、賑わい空間になっている。

Ⅲ 田原市中央図書館（愛知県田原市）

コンセプト・基本理念 : 知り、学び、楽しむ機会が誰にでも開かれている図書館
特徴・概要 : 明るく広々とした、中庭の緑を感じられる図書館



具体的な特徴・概要

1 隣接する公共施設の相乗効果

(1) 図書館への通路が、文化会館、体育館とつながっている等、相乗効果をもたらすような計画がされている。

2 心地のよい空間づくり

(1) 中庭・テラスの緑を眺める位置に多くの閲覧席が配置され、快適な時間を長く過ごせるよう考えられている。

Ⅳ 塩尻市市民交流センター（長野県塩尻市）

コンセプト・基本理念：知恵の交流を通じた人づくりの場
特徴・概要：「図書館」、「子育て支援・青少年交流」、「シニア活動支援」、「ビジネス支援」、「市民活動支援」の5つを重点分野とする複合施設



具体的な特徴・概要

1 3つの役割

(1) 応援：意欲と活動を応援します。

- ◆ 活動を広げる機会が見つかります
- ◆ 活動参加のきっかけがつかめます

(2) 提供：役立つ情報を提供します。

- ◆ 必要な情報に最短ルートでたどりつけます
- ◆ 悩みを解決するヒントが見つかります
- ◆ 新しい世界に出会えます

(3) 進化：知恵を蓄積・活用・創造します。

地域の価値を見つけて発信します。

2 5つの分野を持つ複合施設

「図書館」「子育て支援・青少年交流」「シニア活動支援」「ビジネス支援」「市民活動支援」の5つの重点分野を設定しています。

この5つが個々に機能を発揮するとともに、各分野が有機的に連携し、相乗効果を生み出す融合事業も展開していきます。

※資料1～4は提出資料より抜粋

■事務局説明要旨

資料1に第1回及び第2回委員会の経過を記載している。

第1回会議では、「誰のために」・「何のために」を整理し、前回の第2回会議では、ビジョン・コンセプト等を協議いただいた。

前回の第2回会議では、「中心市街地の活性化」、「まちづくり・人づくり」、「高齢者が安心して暮らせるまち」、「子供が元気なまち」という発言を多数いただき、庁舎跡地に求められるニーズを言葉で表すと「文化力」という言葉で表現できるという意見が非常に多かった。

また、庁舎跡地に求められる方向性としては、「子育て・高齢者の拠点づくり」、「ひとづくり・文化の拠点づくり」、「憩いと交流の場」、また、商店街に歩いて行ける「人の循環の仕組みづくり」という意見があった。

資料2は、これまでの委員会でいただいた「活用の方向性」の意見をまとめたものである。

資料3は、第2回検討委員会で多くの委員から提案された活用事例を記載している。

また、本日議論していただくにあたり、前回まで多くの意見をいただいた「図書館を核とした複合施設」の事例を資料4で紹介している。

■委員発言要旨

●委員長 「公共施設のアンケート」についてももう少し詳しく説明願いたい。

●事務局 「公共施設のあり方検討会」でアンケート調査したもので、そのアンケート調査の中の自由意見として回答されたものである。

●事務局 「公共施設のあり方検討会」は、正式には、市の「行革懇話会」という外部組織のことで、行革全般について協議している。

この懇話会では、昨年度から「公共施設の再編」を集中的に議論している。その中で、市民の意向を確認するため、6月に市内1500世帯を対象にアンケートを実地した。アンケートは、660人から回答をいただき、そのうちの約200人から自由意見をいただいた。自由意見の中で、個別の施設については、図書館という要望を多くいただいた。それらを集約したものが、本日の資料である。

●委員長 これまでの議論の内容が、資料に網羅されていると思う。これまで、図書館についての意見を多くいただいているので、図書館以外の施設についてご提案があればお願いしたい。

●A委員 私が所属する「市民懇話会」では、公共施設全体について、どうあるべきかを協議している。現在は、財政的に維持できるか等の観点から協議しており、具体的な施設をどうするかは、今後の基本計画で協議されると思う。今は、基本方針としての考え方の整理をしている。その考え方の整理としては、施設が老朽化してきた場合、非常に維持・改修にコストがかかる。このため、施設の集約や多機能化を図る等の方向で協議しているが、具体的な施設の議論はしていない。この跡地検討委員会で議論されてきた図書館だけの施設ではなく、いろんな周辺施設の機能を集約しようという意見は、市民懇話会の方向性と同じであることからよいと思う。

●委員長 A委員の発言のとおり、庁舎跡地の利用を検討していくうえで、現存する公共施設の再編は重要である。本日の会議場所である「市民会館」も築50年になろうとしており、耐震性の問題や施設の老朽化に伴う修繕に多くの費用を要している。また、「三日市公民館」や「働く婦人の家」等も同じであるが、そういう施設の統廃合も念頭に置きながら協議していく必要がある話だと思う。

●B委員 前回の会議でも発言したが、「働く婦人の家」や「三日市公民館」等を複合的に集約してということであるが、既存の「コラーレ」の位置付け等、様々なことが関係してくると思う。また、事

業費やスペース問題等、限られた条件の中で事業を進める必要があることから、多くのリクエストに応えることは大変難しいと思う。そういった中で、図書館と公民館活動は非常に関係が深く、相乗効果はかなりあると思う。現在の「働く婦人の家」や「三日市公民館」は様々なサークルが利用しており、内容をさらに充実すればより多くの方に利用してもらえる。また、この利用者のほとんどがリピーターであり、一過性や興行的なものではない。施設の充実を図れば限られた事業費と限られたスペースでも大丈夫ではないかと思う。さらに、これにより大きな課題となっている中心市街地の活性化にも繋がってくると思う。

三日市自治振興会では、同様の内容で住民の意見を聞いている。また、本日紹介いただいた他県の図書館の先進地視察の話もあったが、隣の魚津市の公民館や図書館のように地域の一番を目指した方がよいと思う。

●D 委員 私が、塩尻市の「市民交流センター」を視察して思ったことは、図書館のスペースもかなり確保されていた。また、子育て支援等のいろんな事業が行われており、委員各位が求められている機能がだいたい網羅されている気がした。

第1回の検討委員会でも聞いたが、仮に図書館を建設するにしても、他市の図書館では、元旦から営業している施設が数多くある。仮に素晴らしい施設を作っても、この辺を改善する必要がある。また、検討にあたっては、各委員それぞれのいろんな思いがあると思うので、その意見をまとめていくことが必要ではないかと思う。

施設については、図書館が第1候補だと思うが、図書館を含めて、皆さん方に積み重ねていただき、その中で、どのような方向性をもって取り組めばよいのか。また、予算の規模はどうか。いくら要望しても行政に予算がなければそれで終わってしまう。市では、ある程度の規模を想定していると思うので、その中で、私達の意見を少しでも取り入れていただき、やっていけばよいとの思いがある。

塩尻市の「市民交流センター」は、これまで出された意見の全てが網羅されている非常に素晴らしい施設であると思うので、委員会で一度視察すればよいと思う。

●F 委員 今回の資料を見ていると、図書館にはレストランやカフェ等の飲食サービスが不可欠ではと考えている。実際の運営では、なかなか難しいと思うが、コンビニが併設されていれば利便性がある。ちょっとした休憩スペースで軽食等をとれるのではないか。また、周辺に住む高齢者の買い物場所が三日市になくなってきており、そういう意味ではまちの中にコンビニがひとつあるだけでも随分違うような気がする。そういう意味でコンビニを併設させるのは面白いのではないかと思う。

●G 委員 女性の立場からすれば、「働く婦人の家」も老朽化おり、何とかならないかと思う。この機会に「働く婦人の家」の機能を複合できるのであれば、女性のサロンとして活用できるし、公民館活動にも繋がると思っている。また、新しい黒部庁舎の中の保健センターには、調理実習室がないので、作っていただきたいという意見を聞いている。これは、高齢者や公民館活動にも利用していただけたらと思う。さらに、施設の中に小劇場的な場所があれば、映画や講演会が開催できると思う。これは、大きなものではなく200名程度の小さなものでよいと思う。

●委員長 この「市民会館」や「働く婦人の家」等をどうするかということがあがるが、現庁舎跡地の面積を考えると、複合施設にするとしても、「あれもこれも」ということにはならないと思う。このため、何よりも駅に近いこの場所は、現庁舎跡地の議論とセットにイメージして議論してもよいのではないかと思っている。

●C 委員 今は、自分も車を運転して移動できるが、これから年をとっていくと運転ができなくなる。

この場合、公共交通を利用しなければならなくなる。そういうときに、高齢者が気軽に利用できる施設があればと考えている。施設の核になるのは、図書館だと思うが、複合施設として高齢者や子供たちが気軽に立ち寄れる施設をお願いしたいと考えている。

●E委員 昨日、青年会議所の会議に出席した際に、他のメンバーから、庁舎の跡地についてきちんと意見を言ってこいと言われ、改めて青年会議所を含めて市民から期待されている会議だと思った。今回、事前に資料が送られてきたが、資料の内容が図書館に偏っているというのが第一印象である。検討にあたっては、基本的にはニュートラルであるべきだと思う。

青年会議所のメンバーから学校にすればどうかとの意見があった。庁舎跡地を学校にした場合、若い人がそこで学ぶこととなる。例えば新幹線を利用して、学びにくる人もいると思う。富山県では東部に学校、いわゆる大学、専門学校がない。図書館等を建てようといいいながら、そもそもそこで学ぶ人は何処にいつてしまうのかという根本的な問題があると思うので、学校がよいのではないのかという意見があった。私も容易ではないと思うが、目指すべき形としては、ありではないかと思う。

図書館もよいと思うが、学校ができれば、当然図書館が必要になり、必然性のもとに建てることになる。そういう意味では、順番としてはそうなるのではないかと思う。

たまたま、先週ニュージーランドに行く機会があり、図書館を視察してきた。そこでは、学生ばかりで座れるスペースもないくらいであった。特に、カフェが充実している訳でもなく、カフェに人はいなかった。まさに、学校と図書館がセットになっていると思った。そういう意味では、今の段階で図書館に偏りすぎているのは危険ではないかと思っている。

●委員長 学校ということでは、魚津市の洗足学園を思い出した。あこは、音楽を通じて、ある一時期、非常に魚津市のイメージを高めた。今、ご意見いただいた「学校」という発言は非常に新鮮に感じた。いろんな壁があると思うが、斬新な提案は非常にありがたい。

●H委員 最初に、資料の図書館を核とした事例集では、それぞれ個性があり、活発に活動している施設を紹介していただいたと思う。

私は、今一番必要なことは、公共施設の中で、「ぶらりと行ける場所」だと思う。そういうことを考えると、施設は、公民館等ではなく、図書館が一番行きやすい場所だと思う。図書館は、ぶらりと行って、そこで本と出会い、人との出会うことができる。本屋に行くといろんな方がぶらりとしている。あれも、一番行きやすいからだと思う。

私は、定年後、地元の同級生と交流できると思っていたが、なかなか、他人の家ばかりに行くわけにはいかない。このため、図書館等で間接的に出会えることや安曇野市の図書館のように、利用者が交流できるサロンや喫茶コーナーがあったり、大きな声を出して談話できるスペースがあったりすることが大事だと思う。ただし、図書館の根幹的なサービスがきちんと維持されていることが大事だと思う。資料に記載されている「武蔵野プレイス」も非常にいろんなものが入っているが、図書館の基本的なサービスがきちんと維持されていると思う。また、塩尻市の「市民交流センター」も基本理念等がきちんと整理されている。そう考えると、私は、公民館は団体やサークルでの利用や会議が入ってないと利用しづらい。そういうことがなくても気軽に利用でき、自由に交流できる施設が図書館だと思う。

安曇野市の図書館も交流支援センターという名前がついており、私は、図書館のほかに交流できるような施設を名称が変わっても取り込めばと思う。

●I委員 行政の立場があるので、当然、この跡地の議論についてどうあるべきかという観点で考える必要があるが、今、新しい視点で考えなければならないのは、新幹線時代が到来し、いろんな人が交流

することになり、新しい交通手段によって、いろんな地域からいろんな人が集まってくる。そういう中で、新しい施設には、この黒部市は、自然も素晴らしいが文化的にレベルの高い、これからの地域形成に必要な施設であるとか等の特色をいかに出していくかが必要であり、求められていると考えている。このため、図書館はそういう意味では、一番中核的な施設になるだろうと思っており、各委員が発言されている生涯学習を含めた市民が自由に交流できるスペースをどのように併設して有機的に利用できる仕組み、仕掛けをつくり、施設を建設できればというのが、個人的な考え方である。この事業費に 20 億円から 30 億円を要すると思うが、ある程度、抑制しながら特色ある施設、黒部市ならではの施設を目指したいと思っている。

●**委員長** 私も委員として話をさせていただきたい。前回は図書館の話が多く出たが、今回も図書館を中心という意見が強かったように思う。しかしながら、E 委員のように新しい発想の意見もあった。

図書館の話がでてきた背景には、現図書館は、施設が狭く、駐車場も少ない。これを何とかしなければならぬということで、現庁舎跡地の候補に図書館がでてくると思う。今の図書館は、図書館の機能が他に比べてあんまりであると感じている。

新しい図書館を作るのであれば、「どこにでもある図書館だが、黒部市にある図書館が一番いい」ということを目指すべきと思う。建設には、面積等の問題があるが、黒部市の図書館には、宇奈月館がある。このため、私は、宇奈月館の個性・特色をきちんと併せてうたっていく必要があると思うので、宇奈月館もあわせて議論した方がいいと思う。

私が視察してきた安曇野市の図書館は 3 館あり、それぞれの機能をはたしていた。また、安曇野市の図書館で感心したのが、施設の中に多目的ホールがあり、そこにはグランドピアノも設置されており、音楽会がよく開催されていた。また、この多目的ホールは、200 人規模の可動式の座席と舞台があり、そこで、映画の上映やいろんな会議が開催できるようになっていた。

ここは、図書館と美術館が並んでおり、安曇野市は映画監督の「熊井 啓」の出身地ということで、「熊井 啓記念館」が施設の中に併設されていた。そこには、「黒部の太陽」等の代表作の資料が全部あった。

長野県には、美術館が非常に多く、個性的な美術館がたくさんある。安曇野市は、人口が 8 万か 9 万人だと思うが、市内に美術館、図書館が 8 つも 9 つある。黒部市と比較するのはどうかとも思うが、黒部市も宇奈月館の特色をもっとアピールして、新しい図書館を目指すことが必要ではないかと思う。長野県は非常に図書館を地域の活性化に活かしていると思った。そういう意味では、先ほど岩井委員が言われたが、黒部市には「コラーレ」があるので、コラーレができないものは何か。図書館をコアにして、あと、多目的には何があるのか。いろんな交流という意見があった。それから、年配者のことや子育てのこと、また学習施設、学校。さらには、これは別の発想になるかもしれないが、そういう知的な生涯学習や情報発信になるという図書館が持てる本来の機能がありつつ、全国から視察に訪れるような特色のある図書館を目指せばと思う。

先ほど H 委員が言われたが、やはり図書館の根幹部分を行いながら、どういう多目的が考えられるか、もっと具体的に提案して、それが人の循環やまちの活性化につながればと思う。先ほど、公民館という話がでたが、やはり、図書館をコアとして、後はどういう複合施設、多目的な施設を考えるかが、提案の一つとしてあると思う。複数の提案が求められているので、先ほど三井委員から学校という意見をいただいたが、どんな学校が必要なのか等、腹を据えて議論しなくてはならない。

●**E 委員** 最終的に、複数の案を提案するときどの程度の案を提示するのか。例えば夢物語みたいな

ものも一案とするのか、それとも実現性と具体性をもって一案とするのかという話があると思う。図書館については、相当議論されているので、1つの案としてよいのではないか。

ただし、9割が図書館で、残りの0.5割、0.5割が2案目、3案目ということでは、何のための複数案かわからなくなる。このため、一旦、図書館の議論をやめ、次のステップに進まなければならないと思う。

●**委員長** 図書館については、相当意見をいただいた。図書館を中心とした施設ということであれば、図書館だけでも検討、議論しなければならないと思うが、図書館を一度離れて、あまり夢物語みたいなことはどうかと思うが、他の提案もお願いしたい。

これまでの会議で、誰かがスーパー銭湯がいいと言われたが、私がもし委員長でなければ、私はホテルを提案したいと思っていた。現在の市内のホテルには、喫茶店というか、お茶を飲んでくつろぐ雰囲気がない。また、市内には、人が楽しめる、何よりも大町通で、何か美味しいものを食べようと思って店舗が少なく寂しい。そういう意味において、大町通りにホテルがあればよいと前から思っている。

●**E委員** 自分も現庁舎に愛着があるので、個人的な意見としては、現庁舎をそのまま残して活用できればと思う。例えば、若い人たちで起業家精神を持った人たちに部屋を貸し出し、そこでビジネスや飲食店を営んでもらう若い起業家向けのビルディングとして活用できればよいと思う。ここで、自分たちで何かをはじめることができる場所があればと10年ほど前から思っている。

建物を残しながら中身を変えていく。耐震補強が必要になるが、今、若い人たちの起業家精神がすごく衰退している。しかし日本全土で見ればYKKも起業家であり、ユニクロも1代であそこまでいった。このため、起業家を育てるため、現庁舎をアパートメント形式にしてビジネスをやっていただければと思っている。

●**D委員** 商工会議所の移転の話が前々からあるが、一番大事な資金面と場所的な面を考えたときに、会議所の現在の積立金だけではとても無理である。このため、職業能力センターを払い下げてくれないかとか、塩尻市みたいに市の施設の中に入れていかという話があったりしたが、場所的・資金的な問題で頓挫している。

現在、YKKにおいてパッシブタウンが計画されている。この計画では、図書館側を富山市の環水公園みたいな形にしたいという意向であり、いずれ図書館は動かなければならないのかなと感じている。

その場合は、商工会議所も移転しなければならないのかなという思いがある。このため早めに商工会議所の場所を決めなければならないと思っている。

現在、三日市に空き店舗が沢山ある。本当に起業家精神があるのであれば、この空き店舗を利用してもらえばと思う。まもなく、東三日市の空き店舗で、店舗がオープンする。これは、家主と交渉した結果、非常に安い賃貸で営業することができたと聞いている。このように、まずはアパートメント方式ではなく、空き店舗を上手く利用することも一つの手かと思っている。

●**H委員** 市の公共施設の再編等の候補に「市民会館」、「働く婦人の家」、「三日市公民館」等が上がっていたと思うが、それぞれの施設の機能をきちんと検討して、どういう機能を取り入れるかということを考えればと思う。それから、反対するわけではないが、公の施設に民間の企業が入るのは難しいと思う。例えば武雄市は、図書館に本屋が入ったことにより、地元の本屋が困っていると聞く。また、スーパー等が入ればという話もあるが、これも買い物帰り等に利用してもらえるとという利点もあるが、本当に中心街の活性化にそういうものが、プラスになって働くかどうかをよく考えていかないといけないと思っている。

武雄市の図書館は、雑誌は館内で自由に見てもよく 600 種類ぐらいあるが、借りることができず館外に持ち出す場合は、購入しなければならない。また、雑誌のバックナンバーが置いてない。さらには、図書館には保存機能が大事であるが、保存スペースを無くしたり、あるいは DVD は本屋でも扱っているので、図書館の DVD を大量に廃棄した等のいろいろな問題も聞いている。このため、私は基本的には図書館の根幹にかかわる部分には注意しながら検討していきたいと思っている。

●**委員長** 武雄市の例は、話題性は高いが、いろいろ難しい課題も抱えているということだと思う。

●**B 委員** 学校という意見も悪くないが、もっと具体性のある話をしなければならないのではないかと。あと 2・3 回の会議を経て、具体的な提案をしなければならない。このためには、実現可能な具体性のある内容で議論しなければならない、雲を掴むような話ではだめだと思う。先ほど、D 委員も言われたが、集客力のある施設を複合的にセットすることが大事であると思う。

●**委員長** 図書館をコアにした具体的な意見は、かなり出されたと思う。せっかくの機会なので、いろいろな意見を聞きたい。

●**B 委員** 公共施設については、何年も前から施設の統廃合が言われている。検討にあたっては、市の総合振興計画と整合性を持たせて考える必要がある。図書館の位置付けや、コラーレの位置付け等を考え、そういうものを判断材料にしながら話をしていかななくてはいけない。

●**委員長** 複数の案を報告する一つの案として図書館をコアとした施設を提案することは、一致していると思う。次回は、図書館をコアにした場合、どういう機能を取り入れ、多目的な図書館を目指すかの議論をしなければならないと思う。これ以外に、あまり雲を掴むような話を議論しても仕方ないが、本当に図書館以外に必要な施設がないかを確認するために、各委員から発言を求めた。次回は、もう少し具体的な議論を進め、まとめに入っていきたい。

●**A 委員** 今、ここで財政的な問題等を考えると議論が縮小してしまいよくないと思う。これまで 3 回の会議が開催されてきたが、何となく議論が元にもどったような気がする。今日は、この場で意見を出し切り、これまでの図書館の議論と並行して議論していくのか等を明確にした上で、次から進めていかないといつまでたっても結論がでないと思う。

●**委員長** 第 1 回目の市長の話では、複数の提案をいただきたいということであった。その一つとして、図書館をコアにということが大方の意見になっていると思うので、それについては、イメージを今後固めていく必要があると思う。しかしながら、他の施設の提案がないのも正直寂しい。

●**E 委員** 委員会からの提案は、どの程度までの内容で提案するのか。

●**事務局** 来年の 8 月を目途に黒部庁舎、宇奈月庁舎の方向性を導き出していきたいということで、概ね 8 回程度の会議を予定している。

第 1 回会議の市長挨拶にもあったように、できれば複数案を提案いただきたいということであるが、複数案については、例えば、図書館・映画館と何かで複数という捉え方もあると思う。前回の会議では図書館をコアにという意味統一があったような気がする。複数案については、例えば図書館単独とか、図書館と市民会館のコラボもひとつの案だと思うし、公民館とコラボさせるのもひとつの案であると思う。また、近隣の老朽化している、「市民会館」、「婦人の家」、「三日市公民館」、「図書館」の複合という案もあると思う。

塩尻市の資料を見ながら、非常に素晴らしい施設と思いつつ、施設は市街地の再開発で建設されており、事業費が 50 億円程度で、面積が 4900 平米ほどである。現黒部庁舎は 4100 平米であるので、そんなに変わらないと思いつつも、現黒部庁舎の面積は、北銀前の市の公共用地や、せまい路地的なもの

も含めて 4100 平米であることから、実際には 3600 平米前後しかないと考えていた。その場合、塩尻市までの規模ではないにしても、複合施設として活用するには、今の敷地では無理があるようにも思える。

このため、提案にあたっては、隣地の民地を活用できれば可能であるとか等を含めて、複数案とすることも可能ではないかと思っている。前回の委員会では、映画館の意見にほとんどの委員が賛成されていた。そういうものを含めた複合施設が可能であれば、それも私は素晴らしい案だと思う。事業費、面積的に現在の敷地でできる、できないかも含めて、もう少し具体的な意見を 4 月くらいまでに出していただければと事務局では思っている。

●D 委員 各種団体が委員になっているので、皆さん方が何を必要としているのか、この場で述べていただき、それを精査していかないといけないと思う。

●事務局 取りまとめについては、「これもいいね、あれもいいね」という取りまとめにはならないと思っている。この 11 人の委員により、一定の複数案として適切と思われる内容で、提案いただきたいと思います。

●委員長 意見が出つくしたようなので、本日の議論は、この程度にとどめたいと思うが、次回以降、具体的な議論を進めていくためにも、塩尻市の「市民交流センター」の視察をしてはどうか。

【全委員視察了承】

●委員長 視察の日程については、事務局と調整後、後日連絡することとし、本日の会議を終了したい。

閉会時間：15 時 00 分